# 第 1 学 年 音 楽 科 学 習 指 導 案

日　時　平成２１年２月２７日（金）５校時
学　級　岩手大学教育学部附属中学校
　　１年Ｃ組（男子２０名　女子２０名　計４０名）
指導者　小原　一穂（盛岡市立城西中学校　教諭）

## 1　題材名　『１３歳のパートワーク』（声部の役割を意識した合唱表現の工夫）

## 2　題材について

(1)題材について（学習指導要領とのかかわり）

本題材は，生徒たちが日常慣れ親しんでいる「合唱」について，（みんなで心を一つにして歌うということをベースにしながらも），音楽の構造に一歩踏み込み，「自分や他のパートはどのようなポジションにあってどのように機能しているのか」を知的かつ感覚的に理解したうえで，全体の響きを感じ取ったり，テクスチュアの性質を生かして（強調したり，協調して）演奏効果を高める表現を試みたりする学習活動を展開するために設定した。

すなわち，学習指導要領に示された指導事項のうち，以下の内容についての指導を行う。

［第１学年］２　内容

| |
|---|
| A 表　現(1)ウ　**声部の役割**や全体の響きを感じ取り，表現を工夫しながら合わせて歌うこと。<br>［共通事項］(1)ア 音色，リズム，速度，旋律，**テクスチュア**，強弱，形式，構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受すること。 |

＊**声部の役割**について・・・　声部は，音楽全体に対して役割を担っている。また，他の声部とのかかわりの中で相対的にその性格を決定し，時に役割を変化させていく。声部の役割としては，〈主旋律を奏で「うた」の顔を受け持つ，内声で味わいを出す，低声部で支える，オブリガートとして主旋律を飾る，リズムを刻みノリや歯切れを生み出す，音楽の流れをつくる，フレーズのつなぎ役を果たす，雰囲気をつくる〉などが考えられる。本題材では，声部の役割が変化することで全体の響きや音楽的な性格も変化していくことを感じ取りながら，「合わせて歌う」作業の具体性と，そこから生まれる音楽表現の多様性を学ぶことに重点を置いて指導に当たりたい。

＊**テクスチュア**について・・・テクスチュアは，「音と音との垂直的かつ水平的なかかわり合い」という，音を音楽的に組み合わせるときの基礎概念である。従前の「和声を含む音と音とのかかわり合い」と趣旨を同じくしながら，より多様なスタイルの音楽の中で一層意識的に感受と表現の工夫を行うためのキーワードと考えられる。

和声は，和音の連結により音楽に表情を与える方法である。Ⅰ，Ⅳ，Ⅴ等に区分された和音の諸関係による秩序をもち，転調により多様に音楽を展開させることもできる。本題材では，明確なカデンツをもつ小品を教材に，それぞれに聴くポイントとなる場を設定することで生徒が感じたことを掘り下げることができるようにしていきたい。本教材におけるテクスチュアは，ユニゾン，バス進行，２小節の間奏的部分，主旋律と伴奏が明確に区別される部分等，和音や主旋律の魅力を効果的に引き出すように工夫されていて，学習活動に適している。

(2)教材について（題材にかかわる教材性）

『いざたて戦人よ』（藤井泰一郎／日本語詞　マクグラナハン／作曲　編曲者不明）

原曲は，“Song of the Soldier”というアメリカのプロテスタントの賛美歌で，Ｊ．McGranahann が 1882 年に作曲した。原詩の内容はキリスト教徒の強い信仰心を兵士になぞらえて聖歌を力強く響かせようというものである。以下に本題材にかかわる教材性を示す。

○混声四部合唱曲の中で１学年で比較的取り組みやすく，高揚感，満足感を得やすい曲調である。
○構成が明確で，捉えやすい。具体例を以下に示す。

A
・**ユニゾン**で開始する（どのパートも主旋律）
・ユニゾンで始まる２つのフレーズの**反復**
・ユニゾンと四声の和音の**対照**
・二つのフレーズを**つなぐ**バスの役割
・７小節目のバス**順次進行**
B
・「う・た・い・て・」から**２小節の間奏**
・伴奏リズム**３拍目♪♪**のリズムと４拍目（Auftakt）から始まる主旋律の組み合わせ
C（Bの発展 or コーダ）
・バス独自の**弾み**
・バスの**先取り**（１８小節２拍目）

○学年が上がっても歌い続けることが容易で，より充実した響きを求めたり，四重唱，男声合唱等の発展的な扱いをしたりすることもできる。

(3) 生徒について（題材にかかわる実態）

小学校では，各声部の歌声や全体の響き，伴奏を聴いて声を合わせて歌ったり，音楽の縦と横の関係について音の重なり方の視点から学んだりしている。中学校第１学年では，伴奏付きの混声三部合唱の教材を５曲程度歌う中で，声部の役割に簡単に触れている。無伴奏，混声四部合唱への取り組みは今回が初めてとなる。本題材では，曲の完成度よりも，その教材性に着目し，新たに登場した「バス」の役割や本来四声体が基本となる a cappella の全体的な響きを感じ取る活動を中心に題材の目標に迫りたい。

(4) 指導の構想

①曲の構成やテクスチュアに着目できるように授業展開を工夫する。
②バスの視点から相対的に構成やテクスチュアを把握するようにする。
③バスに視点を置く理由は，「他パートに比して独自性が強い役割をもつこと」「中学１年生にとって新鮮なパートであること」の２つである。
④授業の主眼は，バスパートの役割を理解することではなく，自他のパートを「バスと同じ」「バスに対してこういう役割」などと比較しつつ全体のテクスチュアや構成を感じ取って表現することに置く。
⑤全体を３つに区切り，学習対象を絞る。
⑥区切り方は，カデンツの箇所とする。（歌を想起して見当を付け，歌い合わせて確かめる）
⑦対話を中心に進め，「問い」，「答え」，「音での確かめ」の手順を基本とする。
⑧曲の特徴であるバスの「つなぎ」については，役割を消去したものとの比較で働きを感じ取りやすくする。
⑨技能の取り扱いについては和音部分の「音程」と「タイミング」を合わせることに絞る。
⑩「課題」→「まとめ」は言葉ですっきりと。授業展開での音楽活動にはほどよい肉付きをもたせる。

## ３　題材の目標

声部の役割を感じ取り，構成と演奏効果を考えて，合わせて歌う力を高める

## ４　題材の評価規準

ア　声部の役割を予想し，歌って確かめようとしている（音楽への関心・意欲・態度
イ　声部の役割についての考えを述べ，効果を高めるように歌っている（音楽的な感受や表現の工夫）
ウ　正確な音程やリズムで，縦の響きを整えながら合わせて歌っている（表現の技能）

## 5　題材の指導計画（２時間）

第１時　「いざたて戦人よ」の鑑賞と各声部の音取り。まとめの合唱

第２時　テクスチュアや構成の理解に基づく歌い方の工夫

## 6　本時の指導

(1)目　標

・「いざたて戦人よ」を①［バスの役割］の視点から捉え，②テクスチャーや構成を理解し，③合わせて歌うようにする。

(2)展　開

| 学　習　活　動 | ＊教師のかかわり　◇具体の評価規準 |
|---|---|
| **1　学習課題の把握**<br>①「いざたて戦人よ」を歌う<br>② 本時の課題を共有する | ＊生徒の指揮で歌うようにし，良い点を褒める<br>＊始めのフレーズから，バスパートへの関心を引き出し，課題につなげる（４小節３～４拍目） |
| **「いざたて戦人よ」でバスはどんな仕事をしているのか** | |
| **2　課題の追求Ⅰ**<br>①「いざたて戦人よ」を区切る<br>・実際に音を聴きながらカデンツのある３つのまとまりに区切る<br>②Ａの部分について（バスの役割を）考える<br>〈バス役割例〉<br>・1～2小節　主旋律<br>・3～4小節　和音（低音）<br>つなぎ<br>・5～6小節　主旋律<br>・7～8小節　和音<br>（はこび）<br><br>③バスを基準に縦の響きを整える<br>〈和音を合わせるためのよい仕事例〉<br>・タイミングをそろえる<br>・音程をそろえる | ＊「フェルマータして拍手がもらえそう」等の見当を付け，実際に歌って終止感を感じ取り，３つともＩの和音（トニック）であることに触れる<br>＊バスパートは全員で歌うようにする（口ずさむ程度でも可）<br>＊バスとの比較の中で他のパートの役割についても考えるようにする<br>＊ unison と和音の対照，フレーズの反復に気付くように問いかける<br>＊バスはなぜ「つづけ」を２回言ってるのか発問し，２つのフレーズをつなぐ働きであることに気付かせたい<br>**◇バスが「主旋律」から「和音の低音」，「つなぎ」等の役割を担っていることを自分の言葉で述べたり，友達の発言に対しての共感や理解を表明したりした上で「対照」「反復」を生かした歌い方をしている（イ）**<br>＊気付いたテクスチュアを効果的に響かせるポイントを示し，整った和音へと導く<br>**◇バスと自分との音の間隔（音程）をねらい，タイミングを合わせて歌っている（ウ）** |
| **3　課題の追求Ⅱ**<br>①Ｂの部分について考える<br>・Ｓ（主旋律）とＡＴＢ（伴奏）<br>・テクスチュア<br>・２小節の導入部分（間奏）<br><br>②Ｃの部分について実験する<br>バスのつなぎ（われらー）を曲の最後にくっつけるとどうなるだう？ | ＊伴奏部２小節×３回とも３拍目（「～めよ」「～せて」「～くに」）が♪♪のリズムになっていることが主旋律の入りを引き立てていることが実感できるように歌い合わせたい<br>＊導入部分（間奏）の役割についてその部分をカットした演奏と歌い比べることで感じ取らせたい<br>＊この部分は，発展・応用的に捉え，授業の展開の様子を見ながら扱うこととする<br>＊ゆとりがあれば，「つづけ」が繰り返しであるのに対し「われら」は先取りである点にも着目させたい |
| **4　まとめ**<br>①本時の課題の視点から，学んだことを整理し他の学習に生かすための糧とする<br>② バスの視点で学習したことは，どのパートにも生かせる内容であることを確かめ「具体的に学ぶ」ことへの意欲をもつ | ＊学習した内容を板書にまとめる<br>（例）<br>**ａ「いざたて戦人よ」で，バスは［主旋律］［和音］［つなぎ］［伴奏］などの仕事を行っている**<br>**ｂどのパートも合唱の中で自分が受け持つ役割を考えて仕事をすることが豊かな表現を生み出す** |